



# たからmikke通信



No. 9

発行 授業研究部

## 「ふるさと」とは…ふるさと, 古里, 故里, 故郷

「ふるさと」について調べてみました。みなさんの「ふるさと」とは何ですか？また、子どもの頃、「ふるさと」というとどんなイメージを持っていましたか？教えてください。

### ●岩波国語辞典

#### ふるさと【古里・故里・故郷】

その人に、古くからゆかりの深い所。生まれ（育つ）た土地や以前に住み、またはなじんでいた場所。

### ●広辞苑第4版

#### ふる - さと【古里・故郷】

- ①古くなり荒れはてた土地。昔、都などのあった土地。古跡。旧都。万四「一の明日香の川に潔身（ミギ）しに行く」
- ②自分が生れた土地。郷里。こきょう。万四「又更にわが一に帰り来むとは」
- ③かつて住んだことのある土地。また、なじみ深い土地。古今春「人はいさ心も知らず一は花ぞ昔の香ににほひける」

#### ふるさと - びと【古里人】

ふるさとの人。自分の郷里の人。古今春「一の来ても見なくに」

#### こ - きょう【故郷】

生れ育った土地。ふるさと。郷里。平家二「二度一に帰りて、妻子を相見むこともありがたし」。「一を懐かしむ」

- 故郷へ錦を飾る 立身出世をして故郷に帰る。
- 故郷忘(ぼう)じ難し 故郷はなつかしく忘れられない。

### ●文部省唱歌『ふるさと』

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 一 うさぎ おいし かの やま | 二 いか に います ちち はは |
| こぶな つりし かの かわ   | つつが なしや ともがき     |
| ゆめは いまも めぐりて    | あめに かぜに つけても     |
| わすれが たき ふるさと    | おもい ずる ふるさと      |



三 こころざしを はたして  
 いつの ひにか かえらん  
 やまは あおき ふるさと  
 みずは きよき ふるさと

●室生犀星「ふるさとは遠きにありて思ふもの」『小景異情』（1913）

小景異情

室生犀星（1889-1962）

<その一>

白魚はさびしや  
 そのくろき瞳はなんといふ  
 なんといふしほらしさぞよ  
 そとに昼餉をしたたむる  
 わがよそよそしさと  
 かなしさと  
 ききともなやな雀しばなけり

<その二>

ふるさとは遠きにありて思ふもの  
 そして悲しくうたふもの  
 よしや  
 うらぶれて異土の乞食(かたい)となる  
 と  
 帰るところにあるまじや  
 ひとり都のゆふぐれに  
 ふるさとおもひ涙ぐむ  
 そのころもて  
 遠きみやこにかへらばや  
 遠きみやこにかへらばや

<その三>

銀の時計をうしなへる  
 こころかなしや  
 ちよろちよろ川の橋の上  
 橋にもたれて泣いてをり

<その四>

わが霊のなかより  
 緑もえいで  
 なにごとしなければど  
 懺悔の涙せきあぐる  
 しづかに土を掘りいでて  
 ざんげの涙せきあぐる

<その五>

なににこがれて書くうたぞ  
 一時にひらくうめすもも  
 すももの蒼さ身にあびて  
 田舎暮しのやすらかさ  
 けふも母じやに叱られて  
 すもものしたに身をよせぬ

<その六>

あんずよ  
 花着け  
 地ぞ早やに輝やけ  
 あんずよ花着け  
 あんずよ燃えよ  
 ああ あんずよ花着け

『抒情小曲集』大7より

私に言わせればやゝこじんまりと小市民的に詠んだが遠くにありて思うことは現実逃避でややもすると事を美化してしまうという傾向は否定しがたいもののより高い次元から物事を見させてくれるのも真実であるようだ(あるHPより)。

